

第6章

自然環境の保全・創出

第1節 希少動植物保護

1. 「レッドデータブックまつやま」の活用

平成21年度から3カ年かけて実施した希少動植物調査に基づき、市内に生息しているもののうち、絶滅のおそれがある野生動植物をリストアップし、その種の特徴や生息の状況、また減少の原因などの情報を盛り込んだ「レッドデータブックまつやま2012」を平成25年2月に刊行し希少動植物の保護、生育環境の保全などに活用しています。レッドデータブックのデジタル版は、本市ホームページで「松山市野生動植物目録2012」と併せて公開しています。

また、レッドデータブックを子どもたちにも分かりやすくまとめた概要版「市民のみなさんに知ってほしい松山市で絶滅に近づいている生きものたち」を作成し、小学校の環境学習等に使用していただくことで、希少動植物保護意識の醸成にも取り組んでいます。

表37 対象分類ごとのカテゴリ別種数一覧(レッドデータブックまつやま2012のデータ)

分類群	RDB種						合計	RDB まつやま 2002	
	絶滅		絶滅危惧			準絶滅 危惧 (NT)			情報 不足 (DD)
	絶滅 (EX)	野生絶 滅 (EW)	絶滅危惧Ⅰ類		絶滅危 惧Ⅱ類 (VU)				
		A類 (CR)	B類 (EN)						
哺乳類	2	0	1		0	6	3	12	13
鳥類	0	0	8	10	16	18	7	59	51
爬虫類	0	0	2		2	5	1	10	10
両生類	0	0	4		3	1	0	8	8
淡水魚類	0	0	2	3	5	6	6	22	18
昆虫類	12	1	44		42	54	13	166	68
クモガタ類	0	0	0	0	0	5	1	6	3
多足類	0	0	0	0	0	0	4	4	2
海岸動物	0	0	4		1	8	1	15	29
			1						
海産貝類	2	0	2		0	9	1	14	
陸・淡水産貝類	1	0	26		3	5	0	35	27
淡水産甲殻類	0	0	0	0	0	1	0	1	1
高等植物	32	0	55	81	46	19	100	333	285
高等菌類	1	0	14		17	5	10	47	35
合計	50	1	392			142	147	732	550

2. 特定外来生物による生態系被害防止の取り組み

外来生物のうち、海外から持ち込まれ、日本の生態系などに悪影響を与える、または影響を与える可能性が高い種について「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」によって特定外来生物に指定しています。

本市では、特定外来生物疑い種の発見の通報があった場合、情報収集を行い、愛媛県生物多様性センターと連携し種の判別、状況把握を行うほか、市民の安全を保つため、同定されれば周知を行うなど等の対応をしています。

市内でも、住宅街でアライグマやセアカゴケグモ、港湾地区でアカカミアリが発見・確認されています。

外来生物は、生態系への影響及び人の生命・身体への影響、農林水産業への影響など、悪影響を及ぼします。

侵略的外来生物による被害を予防するために、むやみに日本に「入れない」、飼っている外来生物を野外に「捨てない」、野外にすでにいる外来生物は他地域に「拡げない」の外來種被害予防三原則の周知徹底に努めます。



↑住宅街で発見されたアライグマ



↑住宅地で発見されたセアカゴケグモ



↑港湾地区で発見されたアカカミアリ

3. 和気浜緑地での自然環境学習会

和気浜緑地環境整備事業を実施するにあたり、本市の環境まちづくり推進マニュアルに基づいた現地調査を行った結果、和気浜緑地に「レッドデータブックまつやま」に掲載している希少動植物の生息が確認されました。

そのため、ウラギク・シオクグ・ハマサジなどの希少動植物の保護を目的とし、地元住民や工事担当課と調整を行い、水路の全面暗渠化から一部湿地を残す工法に変更、移植などを行いました。

その際に行った工法変更は、社団法人全日本建設技術協会の「2011 年度全建賞」を受賞し、本市の取組が高く評価されています。

また、平成 23 年度の工事終了後は、地元住民や和気小学校児童に美化活動にご協力いただき、自然環境のすばらしさ、環境保全の大切さなど伝える場として、ご活用いただいています。

【整備工事前後の様子】



改修前



改修後



移植後

【生息している希少動植物】



ウラギク



シオクグ



ハマサジ



ハママツナ



アキノミヤナギ



メダカ

第2節 まつやま自然ネットワーク

まつやま自然ネットワークは、「自然とあそぶ・自然をまなぶ・自然とくらす」をキーワードに、自然とのふれあいを通して自然の大切さを学ぶことができる講座やイベントを実施しています。平成30年度末に閉館した都市環境学習センターから、まつやま Re・再来館に拠点を移して運営しています。



市民の自然環境への意識の高揚を図り、環境保全に参画する市民を増やすことで、市民の間に環境保全活動の輪が広がり、松山市での環境保全活動がより活性化することを目指しています。

まつやま自然ネットワークの事業運営は、特定非営利活動法人に委託し、身近な自然に親しむきっかけ作りとして、海や山での自然観察、季節ごとの自然クラフト体験、野草や木の実といった自然を生活に取り入れる講座など、様々な取り組みを実施しています。

令和4年度はのべ409人がイベントに参加したほか、身近な公園の自然観察マップの作成など、ウィズコロナに向けた家族や友人と自然を楽しむツールの提供を行いました。

また、SNSでの身近な生き物情報の発信や、2ヶ月に1回発行する「しぜんネットだより」などを活用し、効果的な情報発信を行いました。

今後も、自然に親しみ自然から学ぶことを目的とした講座やイベントなどを通じて、松山市の環境学習の拡充に努めます。

